



皮膚病理組織診断学入門 改訂第3版

■ 斎田俊明・著

評者 山元 修

鳥取大学医学部感覚運動医学講座皮膚病態学分野

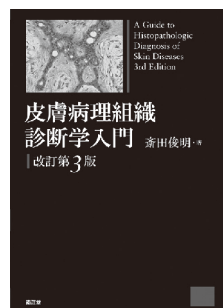
斎田俊明信州大学名誉教授による「皮膚病理組織診断学入門」(南江堂)の改訂第3版がついに刊行されました。待望の書です。これまでの版とどこが違うかといいますと、取り扱い疾患が初版で112であったものが第3版では193疾患と大幅に増え、判型もA4判へと大きくなったために、病理組織写真の詳細が分かるようになった点です。また、記載内容も全面的に見直され、斎田先生の言によると「ほぼ全編にわたって新規原稿を作成した」ということです。

特に私が、臨床写真や顕微鏡写真が豊富に載っている医学書を選ぶ際にまずやることは、ざっとページをめくり、いかに美麗な写真が掲載されているかを吟味することです。本書に関しては、病理組織写真のシャープな美しさとバックの白抜きの良さに加え、その的確さに圧倒されました。組織解剖学に比べドンブリ勘定的なところのあるのが病理組織学の最大の弱みですが、斎田先生の写真にはその曖昧模糊な面が一切見当たりません。写真内に示された説明字句も懇切丁寧です。序文に斎田先生は、自分は形態学・病理学が得手でない、と謙遜されていますが、この本を手にとった読者は、いかに斎田先生が形態学に精通されているかがきつとお分かりになると思います。

さて私事で恐縮ですが、私は日本皮膚病理組織学会理事長を拝命して、若い医師の皮膚病理学教育に尽力してきましたつもりです。以前から皮膚病理学を志す若い医師が減少の一途をたどっていることに危機感を抱いてきましたが、その理由として、私の若い頃周囲に沢山居られたような皮膚病理組織学に精通した皮膚科医が激減し、所見を正確に把握する術を若者に伝えられなくなってきたことが一つあげられます。所見をとることができなければ、当然病理組

織なんてまったく面白くないわけです。また、所見を正確に把握できない病理組織の素人が跋扈して、各種論文・総説を媒体に誤った知識が流布することで、病理組織を志したい若者を混乱に陥れている現状もあり、彼らの病理組織への情熱が徐々に薄れてしまうことも懸念されています。斎田先生は本書について「正確な記述となるように最大限の注意を払った。不正確な教科書は初学者の混迷を深め、実害を及ぼすからである。正しい知識を明晰に伝えるように全力を尽くした」と書いておられますが、まさに上記の懸念を憂いておられ、この点で皮膚病理初心者が一生涯手元において安心して使える教科書であると思います。

本書は、皮膚科医はもちろん一般病理医にも必読の書であり、初心者からベテランまで幅広く正確な知識を取得あるいは整理できる良書としてお勧めします。



A4判・302頁

定価 19,440 円 (本体 18,000 円)

南江堂・2017 年 11 月 15 日発行